

指導責任者	関 典子 【メッセージ】 姫路市の総合病院産婦人科として周産期・婦人科腫瘍・低侵襲手術それぞれのサブスペシャリティが在籍し、最新のエビデンスに基づいた高度な医療を提供しています。産婦人科医師として適切な診断、治療を習得し、患者さんに寄り添い、信頼される医師をめざします。
医師数	常勤 12 名 非常勤 1 名 計 13 名
指導医・専門医数	指導医・専門医数 日本産科婦人科学会 指導医 7 名・専門医 12 名 日本周産期・新生児医学会 周産期（母体・胎児）指導医 2 名・専門医 2 名 日本がん治療認定機構 認定医 7 名 母体保護法指定医師 6 名 日本婦人科腫瘍学会 婦人科腫瘍指導医 1 名・専門医 3 名 日本産婦人科内視鏡学会 技術認定医 3 名 日本超音波医学会超音波専門医 1 名 日本生殖医学会生殖医療専門医 1 名 日本女性医学会 ヘルスケア暫定指導医 1 名 日本遺伝性腫瘍学会 遺伝性腫瘍専門医 1 名 日本産科婦人科遺伝診療学会認定（周産期）2 名 日本東洋医学会漢方専門医 1 名
疾患の比率	婦人科腫瘍 45%，周産期 45%，生殖・内分泌・女性ヘルスケア 10%
病床	産婦人科病床 42 床 MFICU 6 床
患者数	婦人科手術 478 件／年（内訳 悪性浸潤癌 148 件、良性腫瘍 330 件） 腹腔鏡手術 229 件／年（内訳 悪性浸潤癌 36 件、良性 193 件） ロボット手術 38 件／年（内訳 悪性浸潤癌 15 件、良性 23 件） 分娩 585 例／年 帝王切開 259 件／年（うち緊急 126 件／年）母体搬送 155 件／年
病院の特徴	姫路赤十字病院は、33 診療科、560 床の高度急性期総合病院です。総合周産期母子医療センター、地域がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院、災害拠点病院、DPC 特定病院群、がんゲノム医療連携病院に指定され、神戸以西の近畿地方において重要な役割を担っています。先進的な最新医療機器も導入され、ロボット手術を積極的に行っています。また、多職種連携や医師の負担軽減にも力を入れており、医療以外にも毎年開催される赤十字病院球技大会や、テニス、英会話などのサークル活動も盛んです。

研修の特徴	中・西播磨医療圏地域唯一の総合周産期母子医療センターとして NICU と連携して 22 週以降の全てのハイリスク妊婦の母体搬送を受け入れており、妊娠高血圧症候群、胎児発育遅延、胎児異常、前置胎盤、前期破水、合併症妊娠など様々な症例を経験することができます。一方で正常分娩も積極的に受け入れており、麻酔科と連携して無痛分娩も行っています。また、地域がん診療連携拠点病院、婦人科腫瘍修練施設として婦人科悪性腫瘍患者の紹介も多く、腹腔鏡手術やロボット手術など低侵襲手術にも取り組んでいます。良性腫瘍手術のほとんどは内視鏡手術を施行しており、内視鏡技術認定医の指導のもと、シミュレーショントレーニングなども定期的に行っています。 実際の研修では、研修 1 年目は当院で低リスクの妊婦健診、良性疾患の外来検診、正常産、良性腫瘍手術など基本的な産婦人科手技をマスターします。原則として各研修医に対して指導医 1 名が指導にあたりますが、より多くの症例を経験するために複数の上級医の症例を担当し、それぞれ診療内容のフィードバックを受けながら研修していきます。当直は二人体制であり、最初の約 3 か月間は上級医とともに診療し、その後は各自の習得程度により徐々に自立できるように指導していきます。その場合も常に上級医に相談できる体制を整えています。また、より適切な医療を検討するために、毎週治療前カンファレンス、術前カンファレンス、隔週で小児科、小児外科との合同周産期カンファレンスや月一回病理診断科、放射線科と術後合同カンファレンスを行っています。また、常に知識のアップデートを行うために、毎週抄読会を行い、学会発表や論文執筆指導も積極的に行っています。産婦人科専門医取得後は引き続き、周産期、婦人科腫瘍、内視鏡技術認定医、女性ヘルスケアなどのサブスペシャリティ研修が可能です。 産婦人科は昨今の働き方改革以前より、男女に関わらずオンオフの積極的な導入を行ってきました。当直明けは、1 日あるいは半日休みを原則としており、本人の心身の状態に配慮しながら勤務内容を検討していきます。また、女性医師も多く、妊娠、出産、復職がスムーズに行えるよう、継続してキャリアアッ
学会認定施設	日本産科婦人科学会 専門医制度卒後研修指導施設 日本周産期・新生児医学会 母体・胎児専門医基幹研修施設 日本婦人科腫瘍学会 専門医制度指定修練施設 産婦人科内視鏡学会認定研修施設 女性ヘルスケア認定研修施設
専攻医受け入れ可能人数	2-3 名／年